

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 66 号 乙 保	氏 名	荒堀 広美
審査委員	主 査 安原 由子 副 査 安井 敏之 副 査 岡久 玲子		

## 題 目

Symptomatic adverse events of chemotherapy in breast cancer patients: Using CTCAE, PRO-CTCAE, and EORTC QLQ-C30

(乳癌患者における化学療法の有害事象：CTCAE、PRO-CTCAEおよびEORTC QLQ-C30を用いた検討)

## 著 者

Hiromi Arahori, Kazuya Kondo, Yoshie Imai, Takae Bando, Hiroaki Inoue, Soichiro Sasa, Hiromitsu Takizawa.

The Journal of Medical Investigation vol. 71, No. 1,2 February 2024に掲載予定

## 要 旨

がん患者における化学療法の有害事象 (AE) を評価するツールとして、Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) が使用されている。最近、患者が直接 AE を報告する自記式問診票 Patient-Related Outcome (PRO)-CTCAE が開発された。本研究では、CTCAE と PRO-CTCAE の推定値の違いや、CTCAE と PRO-CTCAE で発見しやすい症状について検討した。QOL 評価法である European Organization for Research and Treatment of Cancer-Quality of Life Questionnaire (EORTC QLQ-C30) について検討した。乳がんと診断され、化学療法を受けた 42 名の患者を対象とした。疲労、不安、落胆などの精神症状、動悸、息切れなどの身体的症状については、CTCAE を用いた医療者の認知より、PRO-CTCAE を用いて認知した方が、有意に高かった。嘔吐、吐き気、食欲不振などのレジメン特有の症状の認知は、CTCAE が PRO と同等かそれ以上であった。EORTC QLQ-C30 では、身体、役割機能、疲労、呼吸困難が化学療法 2、3 コース後に有意に悪化した。本結果は、これら 3 つの評価法が互いに補完し合い、患者さんの AE 低減と QOL 維持に貢献すると思われる。その社会的な意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。